

治験について

厚生労働省から新しい薬の製造、販売の承認を得るために行われる臨床試験（人を対象として薬の効果や安全性を確かめる試験のこと）を治験といいます。治験では、新しく開発された薬の人での効果と安全性などを調べます。



抗がん剤の治験について

効果的な治療法が見つからない疾病の治療のためには新薬開発が求められています。

新薬開発までにはいくつかの段階（試験）があります。一般的な薬の治験は※第1相試験～第3相試験を経て審査・承認となります。

抗がん剤では薬の効果や副作用が強いいため、実際のがん患者さんで第2.3相試験から実施することもあります。

製薬会社から治験依頼があった場合、医師より治験参加についての説明があります。説明をよくお聞きになって、自分自身の自由な意思に従って、参加するかどうかをお決めください。

治験へのご理解をお願い致します。



- ※
- 第1相試験…健康な人を対象に安全性などを調べる試験
 - 第2相試験…少数の患者さんを対象に有効性、安全性と投与量などを調べる試験
 - 第3相試験…多数の患者さんを対象に有効性と安全性について、既存の薬との比較などを行う試験

治験管理室

「がん患者サロン」のご案内

がん体験者・がん治療中の患者さん及びご家族を対象に、2号館1階の医療連携福祉相談室で毎月開催しております。自身の体験や思いを語り合う場として是非、ご活用ください。参加いただいた方からは、「皆さんと話をしたら気が楽になった」などの感想をいただいております。参加申し込みは不要で、出入りも自由ですので、お気軽にご参加ください。詳細は、病院内掲示ポスターもしくは病院ホームページをご覧ください。

がん相談支援センター

「がん」について、お気軽にご相談ください

「がん診療連携拠点病院」には「がん相談支援センター」が設置されています。

当院では、社会福祉士・看護師が相談に応じます。必要に応じて、医師・薬剤師・管理栄養士等と連携して、お話を伺います。

〈相談例〉

- がんと言われて頭が真っ白になってしまい、誰かに話を聞いてほしい。
- どのように治療に取りんだらよいでしょうか？
- がんの治療ってどのくらいお金がかかりますか？
- 仕事を続けるのは無理でしょうか？
- 介護が必要になったらどうしますか？
- 緩和ケアについて知りたい。

など



セカンドオピニオンについては、「紹介患者センター」で相談に応じることができます。(医療機関検索・相談方法・費用・予約について)

がん相談支援センター

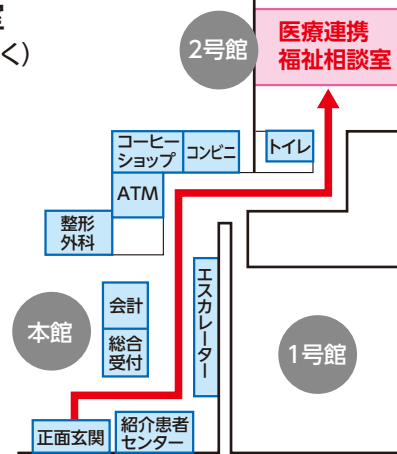
案内図

2号館1階 医療連携福祉相談室
時 間／月～金（祝日・年末年始を除く）
8:30～17:15
連絡先／0479-63-8111（代）
内線2150・2151

相談は無料です。

※なるべく予約していただくことをお勧めしています。

※当センターで医師と直接お話をすることはできません。社会福祉士・看護師がお話を伺い、医師にご相談内容をお繋ぎすることは可能です。



ハローワーク出張相談

ハローワークスタッフが当院で個別に就職のサポートをします。治療のために仕事を辞め、就職を希望されている方や、仕事の継続を希望の方、治療のため就職準備が難しい方などぜひご相談ください。

日 に ち：毎月第2水曜日

時 間：10:30～14:30の間で3人まで（事前要予約制）

場 所：医療連携福祉相談室 費用：無料

申込み：前日の15:00までに医療連携福祉相談室で直接申し込むか、お電話でお申し込みください。

がん診療 あさひ

17号

2025年9月
発行

～がんと診断されたり、治療を受けるときに、役立つ情報をまとめました～



入院・手術サポートセンターのご紹介

外来患者さんの円滑な入院、退院を支援するための入退院センターと、手術予定患者さんの術前評価を確実にし、安心して安全な手術を受けられるように支援する周術期センターを統合して、「入院・手術サポートセンター」が開設されました。

入院が決定した際に、入院・手術サポートセンターにお越しいただきます。入院に必要な書類の書き方、入院までの準備や入院生活に関すること等についてご説明いたします。手術が決まりました方には、安全に手術が行われるよう多職種と連携を取り、患者さんと共に心と体の準備を行っていきます。入院に対する不安や疑問点がございましたらご遠慮なくお尋ねください。

入院・手術サポートセンター

当院は、「地域がん診療連携拠点病院」「がんゲノム医療連携病院」に指定されています。



地方独立行政法人

総合病院 国保旭中央病院

〒289-2511 千葉県旭市イの1326 TEL.0479-63-8111（代） FAX.0479-63-8580

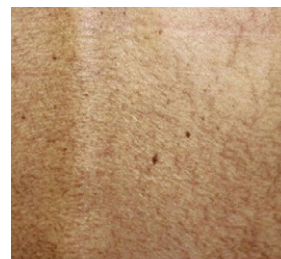
www.hospital.asahi.chiba.jp

がん治療中のスキンケアについて

がん治療中は肌が敏感になり、乾燥しやすくなります。乾燥する理由として、治療の影響で新しい皮膚を再生するターンオーバー¹⁾が延長するためだと考えられています。

肌が乾燥すると、少しの刺激で傷つきやすくなります。そこで、乾燥した皮膚を守るためには日頃のケアが大切になります。

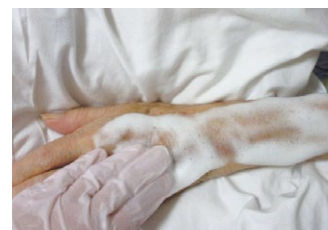
1) ターンオーバーとは、新しい皮膚が生まれて古くなった皮膚が剥がれ落ちるサイクルです。



予防的スキンケアのご紹介

■ 洗浄

洗浄剤は、肌と同じ弱酸性の洗浄剤を使用することがおすすめです。また、洗浄剤はしっかりと泡立てて泡のクッションで洗うことがポイントです。なお、固形石鹸やベビー石鹸は弱酸性ではないので注意してください。



■ 保湿

手洗いや入浴後は10分以内に保湿剤を塗るようにしましょう。その理由は、保湿剤の浸透効果が高いためです。保湿剤にはローションタイプ、クリームタイプがありますが、皮膚に優しいのは、浸透しやすく伸びが良いローションタイプになります。また、乾燥していると思ったらこまめに塗り重ねることも大切です。

院内の売店でも洗浄剤、保湿剤が販売されています。どれを使用して良いか迷う時はご相談ください。

スキンケア相談室 越川綾子

読者アンケートへ ご協力ください

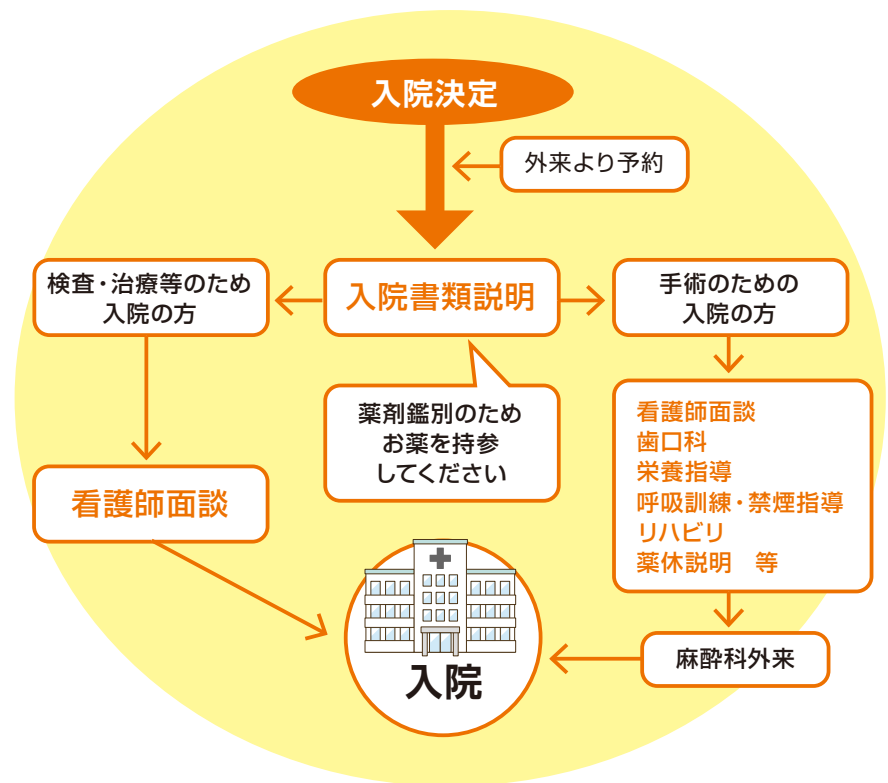
より良い紙面づくりのため、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

右記QRコードからご回答ください。



入院・手術サポートセンターって？

私たちは、患者さんが入院生活を安心して過ごせ、安全に治療を受けていただき、スムーズな退院をサポートします。治療や検査、手術が必要となり、入院が決定した患者さんにお越しいたします。医師、看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士、理学療法士など、多職種が連携して患者さんに寄り添います。



入院が決定した全員行くのですか？

各外来で入院が決定したすべての患者さんに、医師の指示のもと来院日を調整しています。現在患者さんの7割の方にセンターを経由していただき、入院書類説明、面談をし、安心して安全な入院生活が送れるように支援させていただいています。当院は、救急外来からの入院や緊急入院も多く、すべての患者さんに経過していただけない現状があります。そのような方にも、入院説明や退院に向けた早期介入ができるように準備を進めています。

どんなことをするの？

事務員

入院のご案内、入院書類説明、入院までの準備や入院生活に関すること、医療保険制度（高額医療費など）のご案内をします。

看護師

入院生活と退院後の療養生活が不安なく送れるように必要な情報を事前に確認させていただき、医師や病棟看護師と連携をとり、少しでも患者さんの不安や心配事が解決できるようにサポートします。

薬剤師

患者さんが現在飲んでいる薬や使用している薬について、実際の薬とお薬手帳などを確認し鑑別します。その情報をもとに医師が手術や検査・処置に際して休薬等の指示書を作成します。医師、看護師と情報共有し、安心安全に入院・手術に臨めるようにサポートしています。

管理栄養士

栄養状態は、治療効果や予後に大きく影響します。治療や手術前から合併症のリスクを下げるために栄養指導を行います。治療効果の最大化と回復の促進を支援します。

理学療法士

手術を受ける患者さんの呼吸訓練・運動指導を行います。手術後の肺炎や無気肺の予防のために術前から体力をつけておくことで、合併症のリスクを減らして、術後の早期退院・社会復帰を早めることに繋がります。

麻酔科医師

手術を受ける患者さんの、術前、術中、術後の状態を管理します。患者さんの全身状態を詳細に評価し、安全で最適な麻酔を決定します。手術や麻酔について患者さんと家族にわかりやすく説明し、不安の軽減に努めます。

入院・手術サポートセンター

当院の治療や医療のご紹介

多面的な治療で、患者さんを支えます

手術療法について

手術療法とは、がんを切り取って治す治療法です。

手術はからだに負担のかかる治療法ですので、これになるべく軽くするためにいろいろな手術方法が開発されています。胃カメラなどの内視鏡による手術では、皮膚にメスを入れることなくがんを切除できます。また、腹腔鏡や胸腔鏡による手術では、従来の開腹や開胸による手術に比べてずっと小さな傷でがんを切除することができます。

さらに、当院では、より精密な手術操作を可能にした手術支援ロボット（ダヴィンチ）を2台導入し、年間300件以上のロボット手術を行っています。

現代の手術療法は、チーム医療として行われます。たとえば、手術に加えて抗がん剤や放射線を併用する場合は、内科・放射線科と一緒に治療にあたります。また、術前の準備段階から術後の回復期まで、麻酔医・看護師・薬剤師・リハビリ専門職・管理栄養士など多くの職種の人たちがチームとして診療に加わり、患者さんが安全に手術療法を受けられるような体制が作られています。

外科 永井

患者さん

放射線治療について

X線や放射性物質が出すビームを利用して、手の届かないところに治療ができるという特徴があります。各診療科、画像診断部門と協力して問題を見つけ、解決を目指しています。

●外照射

- 一般的な外照射（ほぼ全身が対象、根治・緩和）
- 高精度治療 IMRT 強度変調放射線治療（前立腺癌、頭頸部、子宮癌術後など）、定位放射線治療（脳腫瘍、肺癌、肝臓癌など）

●腔内照射（婦人科腫瘍）

- 内用療法 ソーフィゴ注（前立腺癌骨転移）、ルタテラ注（神経内分泌腫瘍）、放射線ヨード（甲状腺癌術後アブレーション）

放射線科（治療部門） 太田

緩和ケアについて

緩和ケアとはがんに伴う身体や気持ちの問題について、病気の治療だけでなく社会生活なども含めて全人的に患者さんを支える医療のあり方です。

世界保健機構（WHO）では、緩和ケアはがんと診断された早い時期からがん治療と平行して行われるべきものと言われています。

患者さんが自分らしい生活を保つことができるよう、医師・看護師のほか薬剤師・医療ソーシャルワーカー・理学療法士・管理栄養士・臨床心理士が協力し、患者さんご家族に様々な支援を行います。

緩和ケアセンター 崎元

化学療法センターでの治療について

「手術」「放射線治療」と並んで、がん治療の3本柱のひとつに「化学療法」があります。近年、新しい抗がん剤の開発や副作用を軽減する支持療法の進歩などにより、治療効果が向上し、標準化された化学療法が適用されるようになりました。このように有効な化学療法を多くの患者さんが受けるようになり、生活の質（QOL）が重視されるようになったことから化学療法は外来治療が中心となり、安全で質の高い医療の提供の場として化学療法センターが設立され全科の治療がここに集約されています。化学療法センターの病床数は40床（リクライニング8、ベッド32）あり、スタッフはがん化学療法看護認定看護師1名を含む看護師7名と医師1名が常駐しています。1人の患者さんを包括的に支えていく上での治療やサポートの質を高めるために医師、看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、リハビリ療法士によるチーム診療を行ない、すべての患者さんに満足していただけるよう心がけています。

化学療法科 中村